

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果について

教学指導課

- 国語・理科については、小学校・中学校ともに平均正答率が全国平均と同じであるか1ポイント上回っていることから、概ね全国平均並みの結果となりました。
- 一方、小学校の算数については平均正答率がA・Bともに全国より2ポイント、中学校の数学についても平均正答率がA・Bともに全国より1ポイント下回る結果となりました。
- 今年度、文部科学省より新たに学級ごとのS-P表が提供されたことから、分析手法等をすべての学校で共有し、各学校・学級の課題を明確にして、早急に重点的な取組を進めます。

1 実施状況

学 校	実施学校数	児童（小6）・生徒（中3）数
公立小学校	362校（内特別支援学校6校）	17,849人
公立中学校	189校（内特別支援学校4校）	17,521人

※ 児童・生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

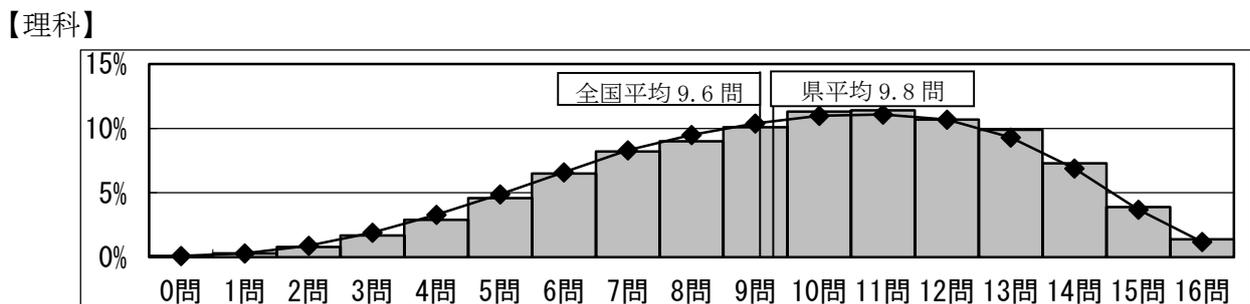
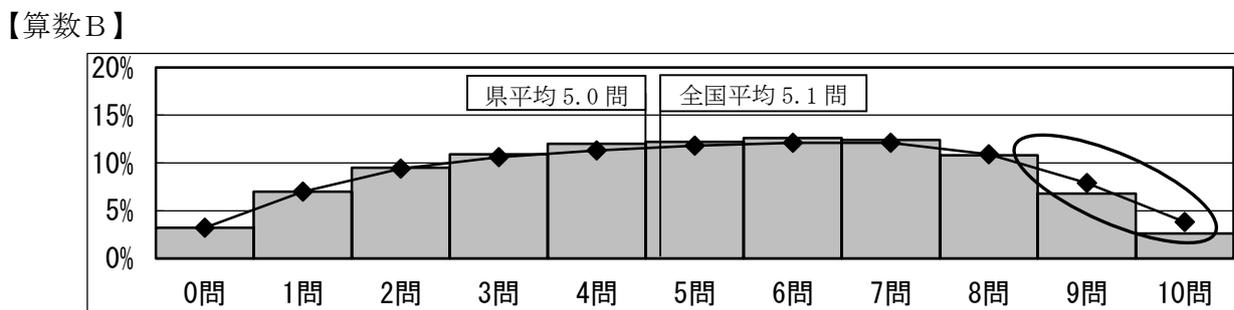
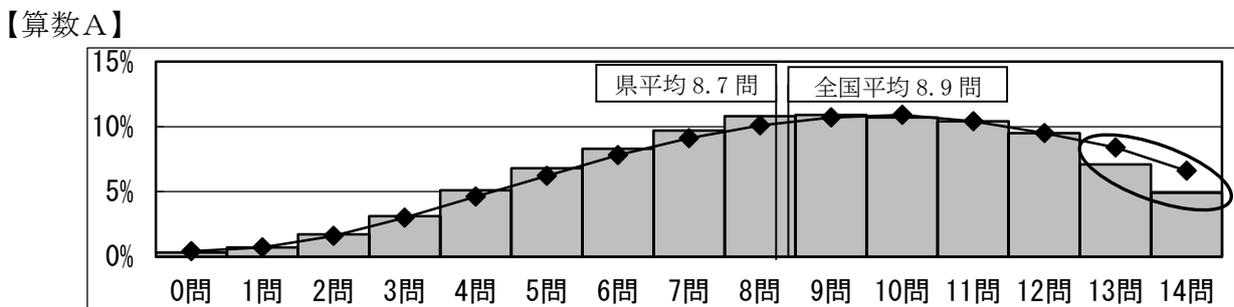
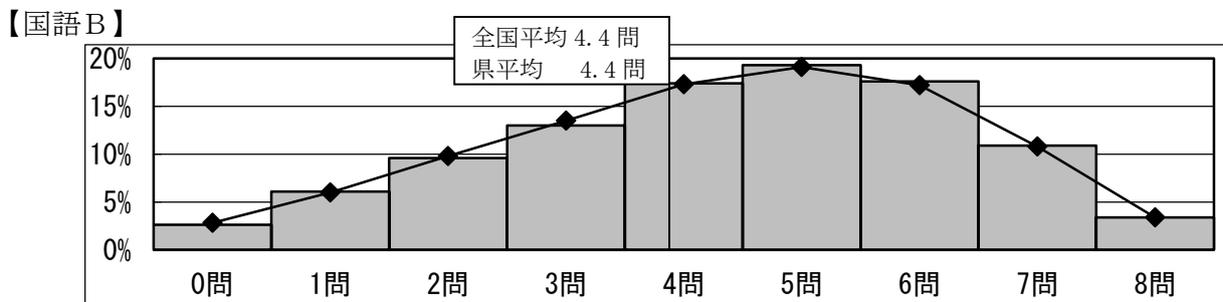
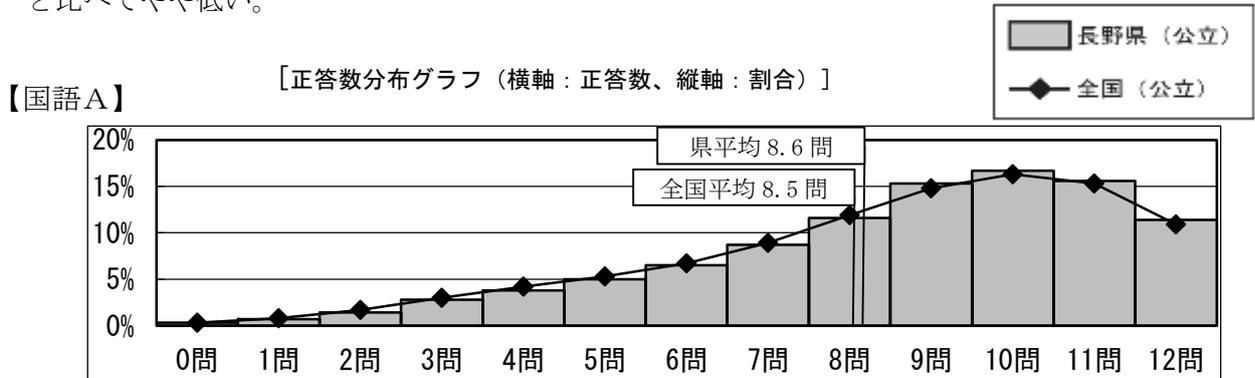
2 長野県と全国の平均正答率（%）の比較（公立）

学 校	年度 教科	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度		平成 27 年度	
		長野県 (全国)	全国と の差	長野県 (全国)	全国と の差	長野県 (全国)	全国と の差	長野県 (全国)	全国と の差
小 学 校	国語 A	72 (71)	+1	75 (75)	0	74 (73)	+1	70 (70)	0
	国語 B	55 (55)	0	57 (58)	-1	59 (58)	+1	66 (65)	+1
	算数 A	62 (64)	-2	78 (79)	-1	77 (78)	-1	75 (75)	0
	算数 B	50 (52)	-2	46 (46)	0	47 (47)	0	45 (45)	0
	理科	61 (60)	+1					61 (61)	0
中 学 校	国語 A	76 (76)	0	78 (77)	+1	76 (76)	0	76 (76)	0
	国語 B	61 (61)	0	72 (72)	0	66 (67)	-1	65 (66)	-1
	数学 A	65 (66)	-1	64 (65)	-1	61 (62)	-1	64 (64)	0
	数学 B	46 (47)	-1	48 (48)	0	44 (44)	0	41 (42)	-1
	理科	66 (66)	0					53 (53)	0

3 長野県と全国（公立）との正答数分布グラフの比較

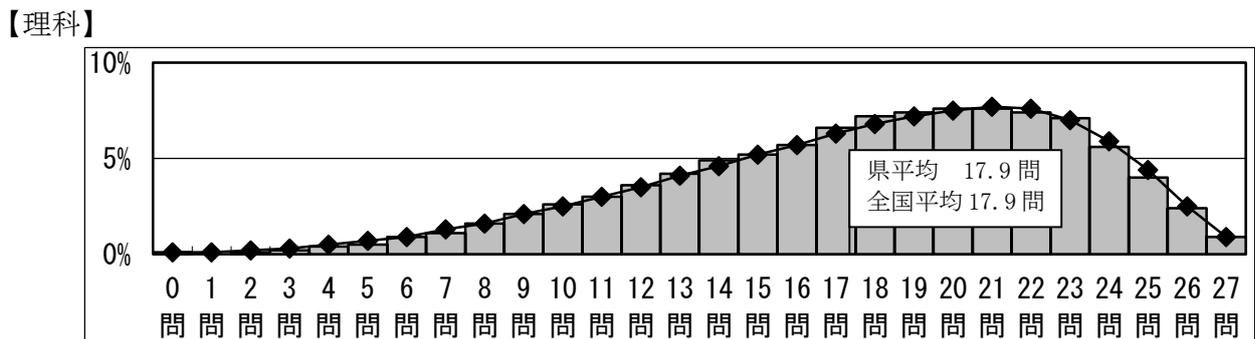
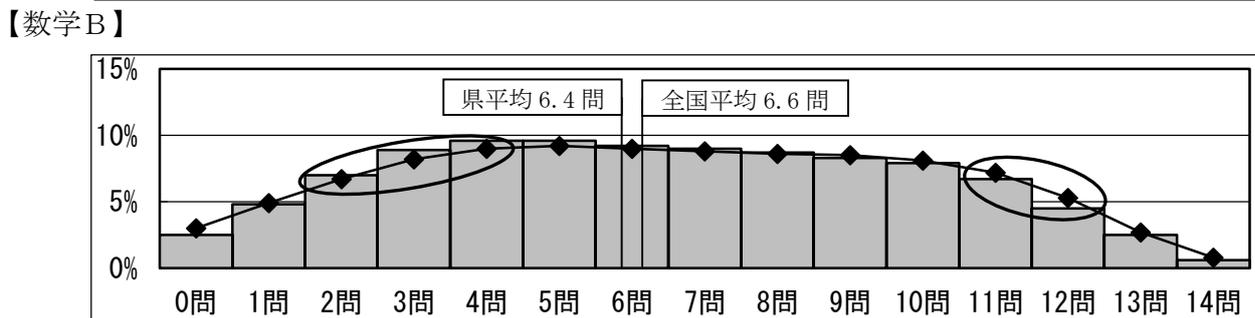
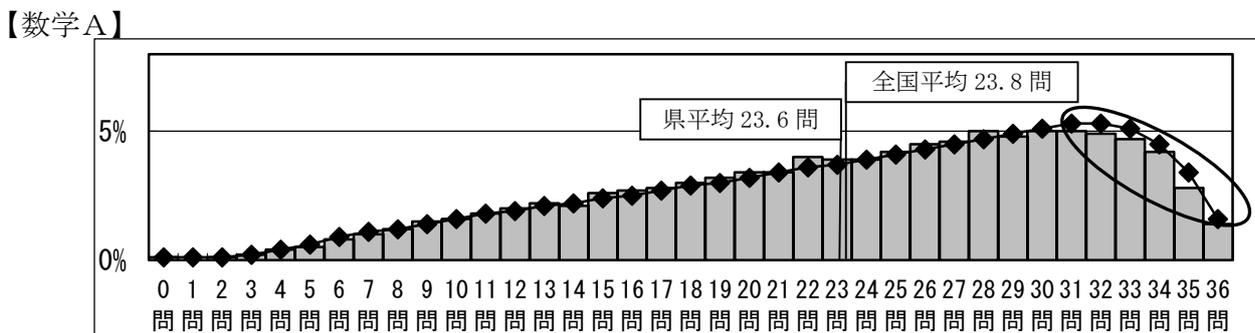
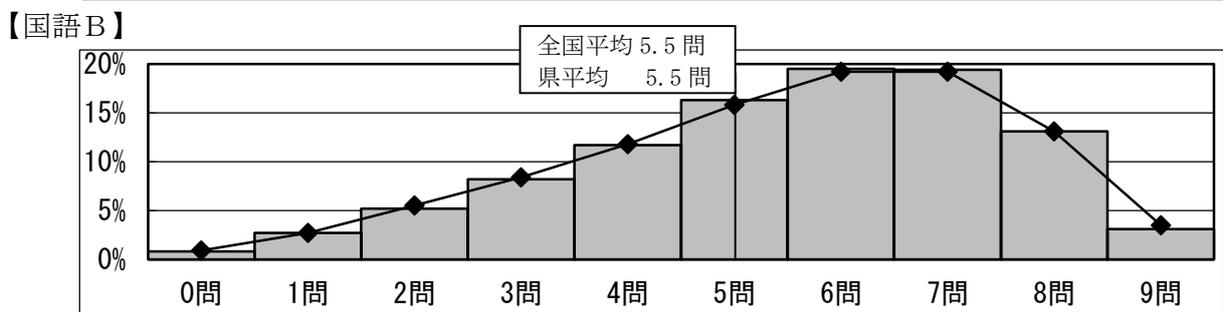
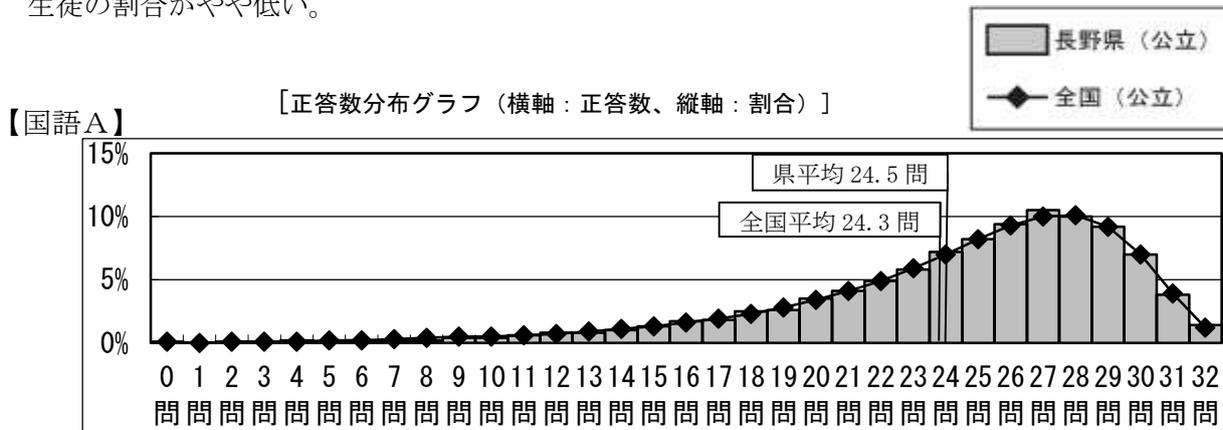
[小学校]

国語と理科については、正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向である。算数Aでは、13問以上正答した児童の割合は、全国と比べて低い。算数Bでは、9問以上正答した児童の割合は、全国と比べてやや低い。



[中学校]

正答数の分布は、全国とほぼ同様の傾向である。数学Aでは、正答数が31問から36問の生徒の割合がやや低い。数学Bでは、正答数が2問から4問の生徒の割合がやや高く、11問、12問の生徒の割合がやや低い。

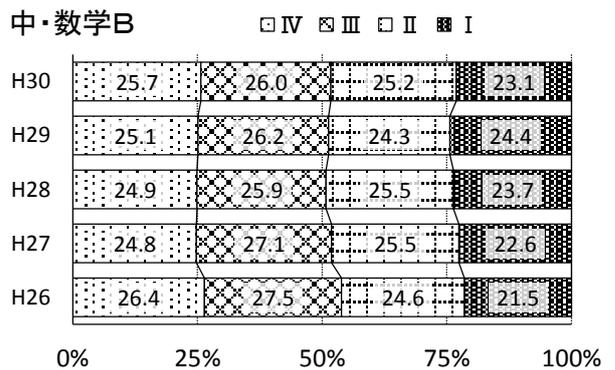
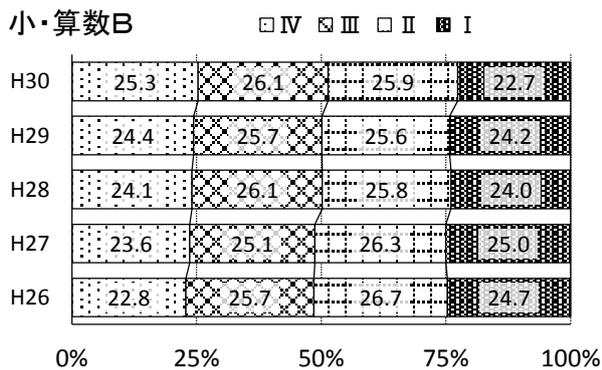
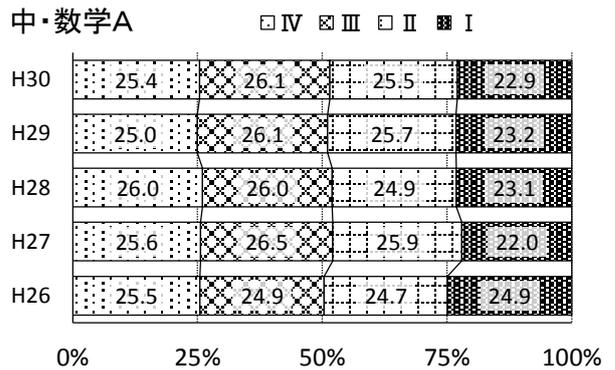
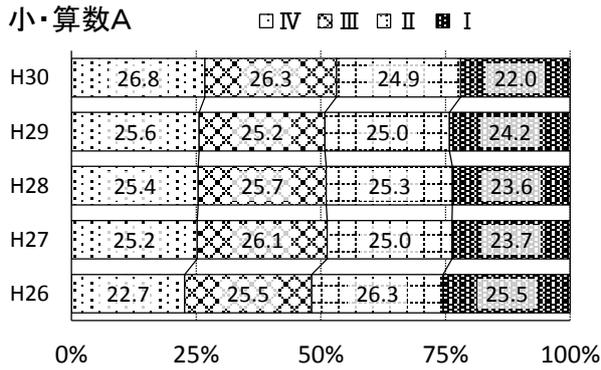
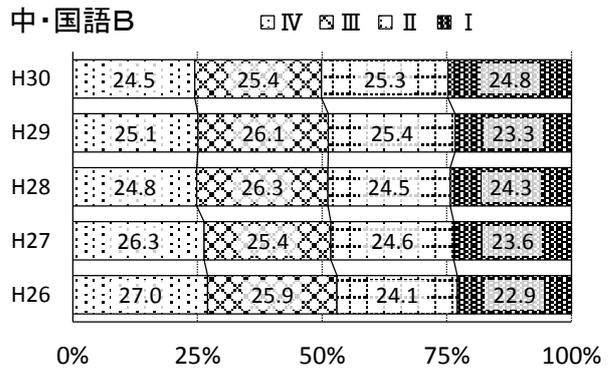
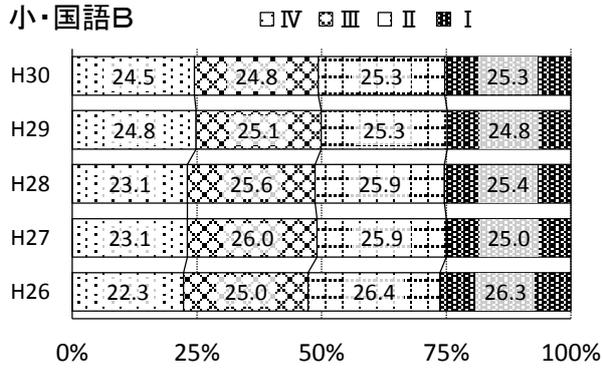
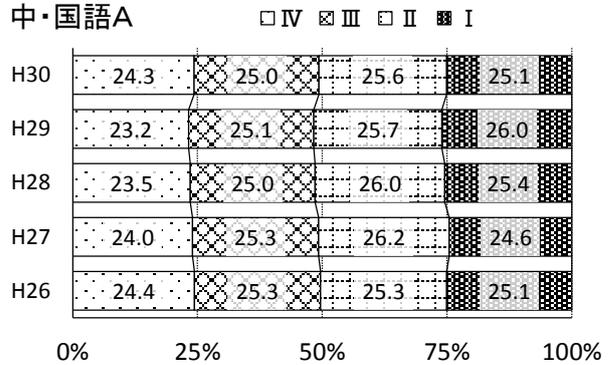
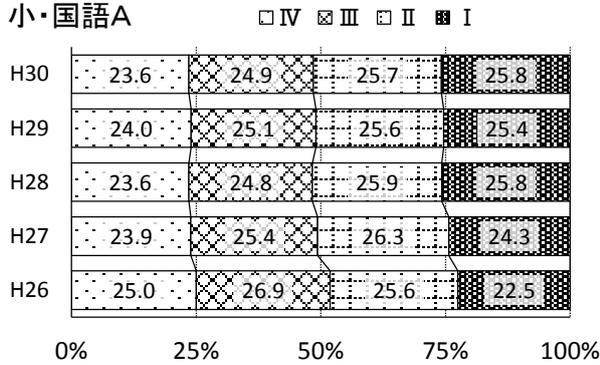


[分布に着目した経年の状況]

※全国を受検者を正答数の多い順に並べ、上位から25%ずつ4分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4等分となるよう補正)し、それぞれの区分をI、II、III、IVとした上で、各区分に入る長野県の子童生徒の割合を求めたもの。

【小学校】

【中学校】



4 質問紙調査の回答状況

計画を立てて家庭学習に取り組む割合は昨年度より増加している。また、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできている児童生徒の割合も増加している。

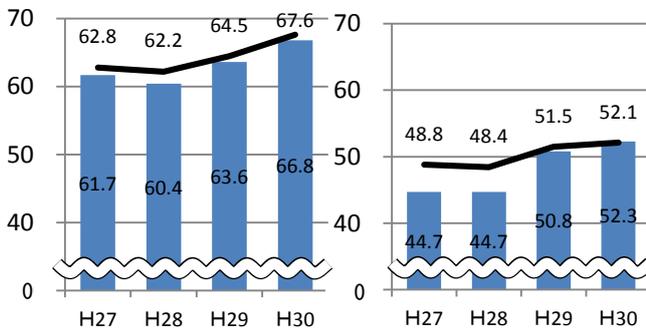
算数・数学にかかわっては、授業の内容が分かると回答している児童生徒の割合は全国と同程度であるが、補充的な学習の指導を行っている学校の割合は全国よりも低い。また、実生活との関連を図る授業を行っている中学校の割合は全国よりも高いが、小学校の割合は全国より低い。

※「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答の割合

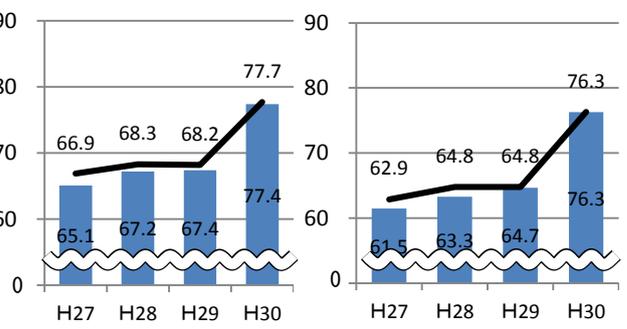
※各項目の左が小学校、右が中学校の調査結果

長野県
全国

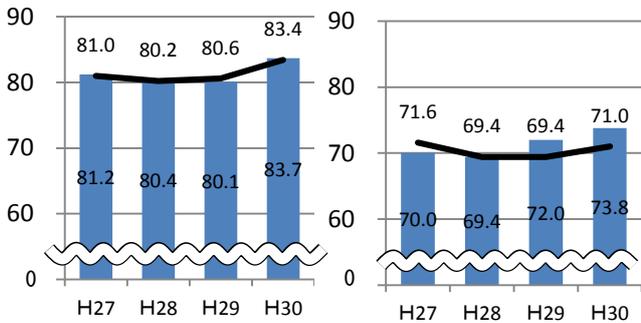
①家で、自分で計画を立てて勉強をしている(児童生徒質問紙)



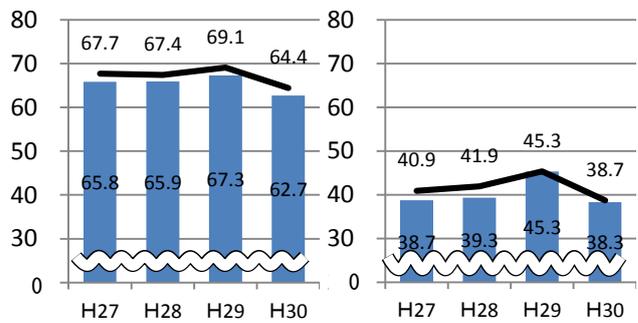
②児童生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか(児童生徒質問紙)



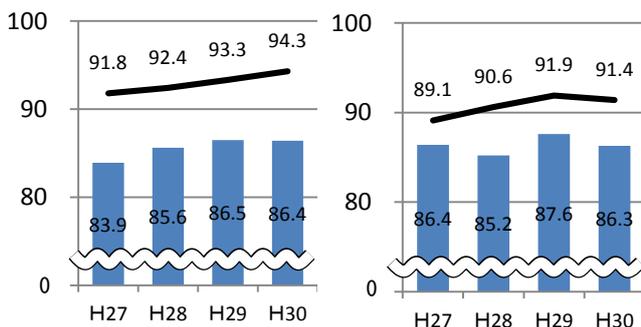
③算数・数学の授業の内容はよく分かる(児童生徒質問紙)



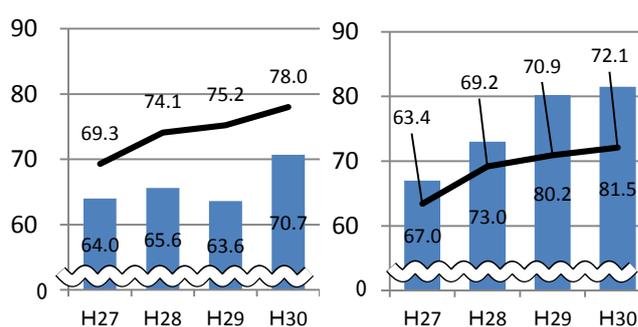
④算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える(児童生徒質問紙)



⑤調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行った(学校質問紙)



⑥調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行った(学校質問紙)



5 今回の結果を踏まえた重点的な取組

(1) 各学校のS-P表※を活用した分析と重点的な指導改善への支援

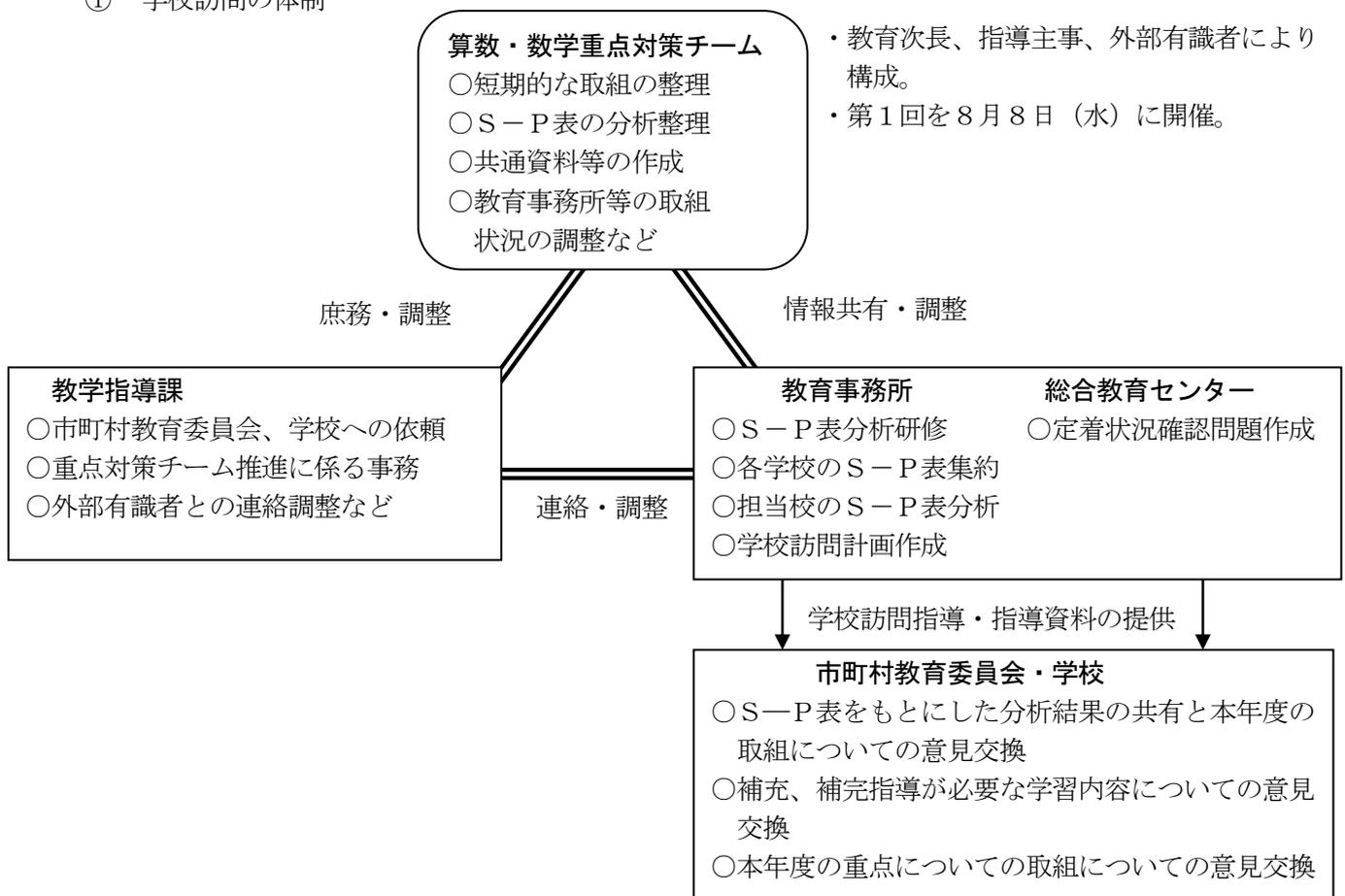
- ・教育事務所の指導主事が、すべての市町村教育委員会、すべての学校を訪問し、S-P表を活用した分析を教員と共に行い、小学校第6学年・中学校第3学年について各学校が補充・補完など、重点的指導を明確にできるよう支援する。

※S-P表：Student-Problem score table のこと。設問の正答率順、正答者数の多い順に児童生徒と設問を並び替えた正誤パターン表のことで、調査問題の特徴や児童生徒の反応パターンなどを分析するための手法。教員にとっては授業改善の手がかりとなり、児童生徒にとっては個別のつまずきが確認できるなど、分析に活用できる。

(2) 算数・数学の授業改善への重点的な支援

- ・算数・数学については、全国平均を下回る結果が続いていることから「算数・数学重点対策チーム」を設置し、すべての小中学校における授業改善の取組を支援し加速させる。

① 学校訪問の体制



② 現在の取組状況

- ・教育事務所単位で、すべての指導主事にS-P表分析研修を実施。
- ・教育事務所等の指導主事がすべての学校への訪問支援を開始。

③ 今後の予定

- ・教育事務所等の指導主事による、すべての市町村教育委員会、すべての小中学校への訪問支援を10月末までに実施。
- ・経年の課題から見える授業改善のための指導資料を8月中に作成。また、定着確認問題等補充学習のための資料を10月末までに作成。
- ・「算数・数学重点対策チーム」を月1回程度実施し、取組を評価・改善。